

校舎建築における色彩のあり方

—北星女子短大新校舎においての実例—

小林 令明

イギリスの寒村を車で走らせていると、やがてとびっきり気持の入ったデザイン性の優れた家にぶつかる。気持の良いその家は、古くかつ丁寧に彩色され、気持のこもったパブかティーサロンとなって訪れた者を誘い込んでくれる。これ等の家を見たときの心のなごみはどうであろう。この豊かな気分は日本では残念なことに味わったことがない。

この感情はどこから来るのであろうか、その特徴を分析してみよう。

- ①念入りに作られている。
- ②色彩が十分吟味されていて、気が利いている。
- ③年代物である。
- ④十分まわりの環境に空間的配慮がされている。
- ⑤家にデザインの知性が十分に与えられている。
- ⑥建築素材は好感のもてる材料を使用している。

ここでは②の視覚的な色彩への配慮が、家を作った人、持主、維持している人の内に、大切に保たれていることを指摘しておきたい。

1. 日本の色彩における過去と現状

このごろ気の利いた喫茶店や家宅が目立つようになった。建築家及びインテリアデザイナーの活躍が、やっと社会的に身を結びつつあることは確かであるが、日本人の心の中に、建物における色彩をいとおしいものとして扱う心は、残念ながらまだ未熟である。あまりにも今までが粗末過ぎたのは、古建築の神社や寺に見られるところの、最初は彩色されても、後ははったらかしにし、在るがままにしておく日本人独特の自然感により、色を持って楽しむ発想が育たなかったのである。桃山時代の為政者の金色に固執した色彩態度は、日本人の意識の中にも色は使いたい欲求があったことを表わしているが、その後の感性しめつけの教育は、儒教の影響もあって、心の豊かさや感情を表現することをおさえたまま数百年の歩みをして

しまった。その常識の中で、色彩無頓着の状況は現在まで来てしまっている。

一方このごろの都市部は色にあふれている。広告の氾濫、看板の横行、ネオンサインの乱立は、パチンコ店に代表されるケバケバしさだ。全てはもうけ優先の社会的体質が、国民の大半が色彩において無頓着をいいことに好き勝手にやっているという状況だ。社会的に取り締まる側の市町道国の役人が、色彩についての十分な教養と判断力を持ちあわせていないので、審問機関に各論をまかせるが、政治施行するトップの役人にこの教養が欠落していると、決定する根拠を、多数の意識がそうしろと判断するまで動かない、とする状態になってしまう。つまるところ、美的な教育が成果を上げなければ、都市全体、及び日本の色彩美意識は、改良されないのである。

2. 若い女性に期待をする——学校建築における色彩の意味

こういう現況を打開するには、感性の豊かな若い女性に突破口を見付けるのは良い方法である。彼女達は自然と美意識が強い天才達である。やがては子供を産み育てるのであるが、子供と付き合う時間の多い母親は、子供への影響は絶大である。影響させられた子供達はやがて社会の担い手達となる。そういう力を持った若き女性達に、日常の端々に良い色彩構成に付き合わせることは、大きな教育ではないか。

学校建築は、学生にとって日常の空間である。そこに良質の色彩構成されたデザインの知性を充分に投入された校舎を造り出すことは、大変有意義なことなのです。

3. 校舎建築における色彩のあつかわれ方

長野県松本氏にある旧開智小学校は、明治9年に建造された重要文化財である。外観からの姿には、これから若き知性を育てる教育への理想や熱意が感じられるし、優れたデザインである。このデザインの中には形だけではなく、形の上に彩色されているという事実を指摘しておきたい。

ペンキでの塗装は7～10年毎に塗り替えなければならなかったが、その度に日本人は色彩で塗られていることの反応は淡白であった。色彩を塗る事に意欲的に改善を含めて行なったふしはない。イギリスの建物との違い

はそこにも表われている。まず塗りがはげると塗り直さなければ気がすまないのがイギリス人であり、より良い家を演出するためにペンキ塗りは楽しい日曜大工であるのだから、色彩へのこだわりも育ってくるのである。

内部空間においてはどうかであろうか。建物は外部より内部の方がより人間の肌との交流が多く、長時間、しかもデリケートに反応し合うのが内部空間と人間の間柄である。開智小学校に足を踏み入れても、明治村にある三重県尋常師範学校に入っても、身近かというより、ある権威ぶった緊張感がある。ロビーも教室も廊下も一様に堅たさど、ある種のおごみが有るのは、用途に応じた雰囲気への工夫、すなわちインテリアへの知的配慮が、成熟していなかったとも言えるし、時代の特徴とも言える。

現代のこれからの人間を作る学舎においては、より人間の感情を計算に入れた工夫を、そうとうにやらなければならない。

4. 短大新建築について

若きこれからの女性の学舎として、この色彩を重要視して計画がなされたのが、北星短大C館新築工事である。

4-1 色彩計画実施の経緯

建築設計監理は上遠野徹氏であり、本来建築家は全ての設計及びインテリア、色彩計画も含めた全体設計に精通し、トータルな空間芸術を造り上げるのがその任務とされているが、建築家は忙しく、実施設計が完了すると、次の仕事に精力的に取り組まなければならない事情もあって、多くの場合色彩計画にまで心もエネルギーも通じない傾向はある。学内の者としては、この計画は以後が無い唯一の建築であり全精力を注ぎたい事柄である。結局色彩計画においては、学内の者である私の方がより強い具体的なイメージと製作意欲があり、上遠野氏の同意もあり、建築委員会の決定により大半の色彩計画を私の属しているインテリアプロジェクトが担当することになった。

具体的には、1階が上遠野氏担当であり、それ以外は全てインテリアプロジェクトが手懸けた。すなわちB1F、2F、3F、4F、5Fの全てである。

ここにおいて建物の設計者と色彩計画者と2人に割れる場合、形として

の建築と内部としてのインテリアがばらばらになり、良きトータル性が出ない場合も危惧されるが、今回は上遠野氏の形の性格を生かす方向で、色彩計画を慎重におこなったので、全体としてはより良き建築が出来上がったと信じている。

4-2 インテリア素材について

内部空間に直接見えてくる材料は、すでに積算済みであり、色紙計画において素材を変更すれば、すぐコストに響いて来てしまうので、積算済みの材料を変更することはほとんどしなかった。幸い壁のほとんどはT12プラスターボード貼りにエマルジョンペイント仕上げという、最も一般的かつ安価の材料になっていたことを長所と受け取り、色彩計画により、特色のある優れたグレードの校舎にすることを狙えた。

4-3 色彩構成の理念

1. 空間の違いについて

建築内部空間の色彩設計においては、床、壁、天井の囲われた空間をいかに彩色し、人間の感性に良い感情をおこさせるかが問われる。内部空間には廊下のような狭い空間や、ロビー、大教室の広い空間があり、その空間の性格も天井高さや幅によって違って来るが、それによって色彩も変えるべきか、それとも変えざるべきかは大きな問題です。幸い色はそうとうに空間内において適応力を持っていて、床、壁、天井の配色を間違わなければ良い状態を作ってくれることを、他の建物の観察することでわかっていました。実際にこの建物も良い結果になったと思っている。

2. 色彩構成について

床、壁、天井の色彩決定であるが、これは3次元の空間色彩構成である。今までの美術教育上の訓練の中では、取り立ててやっていないはずである。これは学校教育上も困難であるからであるが、一般の建築事務所においては、建築を完成させるためには必ずおこなわなければならない仕事であるが、平面のグラフィックや平面色彩構成の訓練をかなりのめり込んでやった人、あるいは情熱を持って色彩と付き合っている設計人がたずさわった場合は幸である。才能ある色彩担当者が介入しない場合はクレームのつか

ない無難な色使いをしてしまい、色彩におけるスピリッツを利用者に与えないのがほとんどである。住宅の場合は施主の選択にまかせる方法がとられているが、これは良いセンスの家主が自分の家に愛着を持つのには良い方法ではある。いずれにしても3次元の色彩構成をするには、2次元の紙の上での色彩訓練での成果が応用されるのが現状だ。

空間の色彩決定をおこなう場合、取られる方法は4つある。

- A、パースを描き何枚も色を変えて推敲し、最後に一つを選ぶ。
- B、パーソナルコンピューターを使用し、パース上に色を次々に変えるシュミレーションをして、一つを選ぶ。
- C、頭の中に像を描き、直感で出た色を大切にしながら頭の中でのシュミレーションをして適当なものを紙上に描いて定着させる。
- D、建物の構造が立ち上がると、現場に何回も行きその場で色彩を思い、決定していく。現場へ行く回数が多い程良い結果がでる。

ABは2次元上に3次元の表現をする方法であり、Cは空想という思念的空間で3次元を思いう方法である。具体性がとぼしく寸法の思いを間違うと、とんでもない空間が出来てしまう。確実性ととぼしい上に最終的には紙上に描き定着させなければならないので、CとAの組合せ方法と言える。しかし、この方法はとっさにその像が浮かび、瞬時に変えることができるので、アイディア開拓には大変良い。これをInspirationと言うが、この思い入れの過程を十分作業させない創造活動は、良い結果は有り得ないと思っている。

Dにおいては、現場百回を自分の合い言葉にして勤めて行こうとしている。これは一番現実的な判断が可能であり、優れた方法である。現場で実空間の中で思いをめぐらし、現場でCの作業をおこなえば、より具体的な決定が出来る。

実際に私が行なった作業は、ACDであり、可能な限りそれを組み合わせてイメージ決定の開発行為を行なった。Bについてはパーソナルコンピューターやソフトが無ければ使用できなく、当時として不可能であったがこれからは有望である。

4-3 女子短大の学舎にふさわしい色彩調査とデザイン方針

私学はたえず学生集めという競争に当てられている。競争力をつける為

には①設備の充実、②カリキュラムの今日的充実、③学生に好まれるサービス、が必要である。

学生が好ましいと思う感情面の満足度は、学校への評価として跳ね返ってくるので、学校側は各分野への配慮を怠っては成らない。

女子学生の感情の好みを色彩計画におり込む為には、今日的な色彩の好みの傾向を調べなければならない。しかも学校として好ましいと感じられる色であり、勉学の邪魔にならない色であり、大多数に支持される色であり、そして学校の特色の一部として、学生の誇りとなれば大成功である。

この難しい要求を満たすために、最初にしたのは見学調査である。道工大、道女子短大、酪農大、静修短大LIMを建築委員会の企画で見学し、インテリアプロジェクトや個人では、札幌商科大学、再び静修短大LIM、稚内北星短大、三愛女子高（現とわの森三愛高）を回り、イメージづくりと好ましい色使いの思索にあたった。

学生に色への調査をすることも考えられるが、学力偏重で美術学習が片隅に追いやられている現状では、啓蒙が必要であり、有識の意見としては取り合えなかった。

見学調査の結果は、①ペールの色調を使う。②各階の色を変え、今何階に居るのかを直感で判かるようにする。この2点の特色を十分なデザイン性で充実させていく方向が浮かんで来た。

4-4 色彩計画実施

1. B1F

壁はフランスの伝統色（大日本インキ化学）F168ジョーヌ・ナルシス（黄）を選ぶ。なぜ黄色にしたのかは、北海道で地下室のイメージは寒いのである。故に暖色系が好ましいのであるが従来白色が多く使われている。寒さを感じさせ、かつ無難さの選択の結果とも言える。白を魅力的に演出するには、しっかりした意識がなければならない。「地中海のサントリニー島では、白一色の石灰を塗り固め、美しい白い集落を形づくっているが、これは強い太陽光線の中でブルーの空と青い海に対比して美しいのである。一方イギリスの灰色の空の基での白色の家も良く似合う。しかし白一色ではなく屋根の色は違出し、窓枠や戸は、黒・赤、緑等の色で塗られていてその対比で美しいのである。」日本の白はまだ独自のデザインの淘汰を経

ていないので魅力まで来ていない。

暖色系の黄色の中でも幾種類もあり、例えば交通標識のランドマークはあまりにも強過ぎ、建物内部の壁一面に塗るには害が多過ぎる。一方白を混ぜ過ぎる黄色は、寒色系の中に入れてしまい寒さを感じさせる。寒からず目に強過ぎからずの中間を狙い、ジョース・ナルシスに決定しました。

上り天井部分の木毛板には、日本塗装工業会64年のサンプルの中からP 18-555（緑）を選ぶ。壁の黄と緑の組合せは、元気の良い色調と言える。

床剤はタータン材が指定材料となり、色は、濃緑色と茶色のみで多目的室という用途上、濃緑色を選んだが、良い色とは言えず、B 1 F全体に及ぼす影響も良いとは言えない。

設計当時、この会は一部体育施設として、他は全学生が活動的に使える多目的室として、用途を限定していなかったが、現在は体育センター的な空間であり、基のイメージと似ている用途である。

学生からは壁の黄色に対してショッキングであると、驚きと、一部拒否反応が出たが、床の緑と壁の黄、天井の緑との組合せが、一度も見たことの無い出来事でありショックを与えたが、時間をかけて学生の意識を観察したい。

2. 1 F

上遠野氏の色彩決定の階であるが、白色ということで最初から言われていて最後まで変更がなかった。事務室をはじめ来客との応接室もあり、外との交流や学内の事務機能として中枢的機能を持つ場所であり、きわめて公共的な場所である。白色というのは無難な色ではあるが、文句の出ない色でもあり、他の階がそれぞれ個性的であるので白色も1つの特色としてクローズアップされて来る。壁は荒目のビニールクロス上に白ペイントであり、他の階のプラスターボード上にペイントよりマチュールが付いて良い状態ではある。床材は積算見積時の長尺シートからモザイクパーケット（木）に変更し、施工監理をする建築家の特権を発揮した。

1 F全体のすみずみまで上遠野氏が決定したのではなく、一部は私が決定をした。

玄関ドア一枠P 3-158（ダーク淡ピンク）できわどい色使いであるが、

外壁に使用したタイルの色使いと対応して、上品にまとめられていると思っている。

来客用階段の手摺りはP 9-934 (淡紫) であり、これも上品に白とのバランスがとれ成功と思っている。2階から降りて来る階段は、2階の壁色734 (はだ色) を、階段に沿って下ろしてきたので、階段の上部は2階色、下部は1階色で空間的違いを出せた。

これ等の来客用の階段の有る場所は玄関ロビーであり、この場所は上遠野氏も苦心してデザイン推敲された所である。白一色ではなく微妙に違った色が構成されたこのロビーは、ブロックガラスや窓からの光りを取り入れ、単調ではない、センシブルで上品な魅力を出している。

3. 2 F

この階は、既存B館との通路が有り、チャペル、学生ラウンジ、同窓会室、学長室、会議室、スロープ教室があり、学生の公有的空間性が強い。学生ラウンジは198㎡もあり、広い空間は空間的圧迫感から意識をゆるめる働きがある。この空間をいかに*いこう空間に仕上げられるかが、色彩選びのポイントになっている。結果としては「日本の伝統色 (大日本インキ化学) 734 (はだ色)」に決まった。この時のイメージは、計画の早い時期からピンク系がふさわしいであろうと直感の中で浮かんでいた。

天井は岩綿吸音板色をそのままとして、上り天井部分のみP 10-159 (淡ピンク) にした。壁色とは違うはずであるが、視覚的には一緒の色に見える。

床のピータイルは最後まで迷い、施工上の期限ぎりぎりまで迷って以下の配置パターン図のように決定しました。

5660	〃	〃	〃	〃	5660
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	5697	5697	〃	〃
〃	〃	5697	5697	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃
5660	〃	〃	〃	〃	5660

2 F ピータイルパターン図

マチコS プレーン

5660 (白)

5697 (淡ピンク)

4. 3 F

この階は、ゼミ用の小教室3室、LL教室1、情報処理室1、AVホールと、学校としては目玉となる施設がこの階にあり、既存A館との連絡通路や、展示施設を設けたロビーが有るので、半公共的雰囲気を持った階であるが、勉強ゾーンであることにはかわりはなく、やや緊張感があるにしても情緒的である色空間を志し、教室外側の廊下やロビーの壁色は、P7-431（淡若草色）とし、教室内の壁色P6-243（淡淡ピンク）と対称させ、教室内の授業中の雰囲気と終って廊下に出た半プライベートな雰囲気の違いを色分けした。さらにドア一枠をグレーにしたので両方からの色がたえず調和して見えるように計算されている。

床は壁と合うPタイルの模様貼りとして、Pタイルという素材にデザイン上の知性を投入し、安価な材料であっても、魅力的な空間に出来ることを証明したかった。幸いマチコSプレーンは、今日的な良い色が多く、これを組み合わせることで最良のものが出来ることを確信した。かなりのパターンデッサンをした後、学生投票をし、さらに検討を加えて以下のパターン図が完成した。

5689	5692	5689	5692	5689	5692
5692	5697	5692	5689	5697	5689
5689	5692	5689	5692	5689	5692

3F.4F ピータイルパターン図

マチコSプレーン

5689（若草色）

5692（淡黄）

5697（淡ピンク）

貼り込んでもらった床は3F、4F共に良い出来と思っている。

3階廊下、ロビー全体は、若草色系に統一したのであるが、上り天井のみ2Fと同じP10-159（淡ピンク）としたのは、明るいアクセントとなりよい結果となった。

ゼミ用の小教室壁はP6-243（淡ピンク）塗りとして、明るく柔かい教室をめざした。教室というと白一色の無色彩かつ無感情の部屋ということになっているが、実際の授業はどうであろうか、このゼミ室は、英会話に多く使用される。会話は、自らやっかいな単語を口に出す授業であるから、気分が盛り上がった方が良いと考えている。この淡いピンクは、極々薄い色なので、長時間室内にいとピンクさを感じなく、何色かも意識し

なくなる。これ等の条件で一般教室にも同色を塗ったが、少なくとも気にはならない。

床は各教室違う色にした。それは似かよった部屋が連なるのが学校教室であるが、学生時代、間違っって違う教室に入ってしまったことや、今何番教室にいるのかわからなくなってしまった経験はなかったでしょうか。床の色を変えることによって赤の部屋とか、青の部屋とか、感覚的に判かるようにしたが、予算を安くおさえるために、Pペット・ニューコロナ赤・青・緑を、それぞれの小教室に貼ってみた。どの部屋が人気があるか、無いか調べたいものである。

教室ドア一色は、3階は強若草色P11-452であり、同色系のまとまりを狙った。教室内からは、淡いピンクとの対比上の違いがさうとう有るが、うまく調和を保っている。

5. 4 F

この階は一般教室のみで有り、3階同様ある種の緊張感が必要であるので、寒色系の淡い青色を基調色とした。P9-631（淡青）を壁色として、各教室ドアもP13-852（青）の同系色とした。教室内から見ると、全室とも壁はP6-243の淡ピンクであるが、ドアとも良く合っている。

廊下及びロビー床は、3階とまったく同じピータイル模様となっている。各教室床は色違いのピーベット貼りであるが、大教室においては、おさえた色調にしている。教室内は全てピーベットかタイルカーペットになっているが、ピーベットの部分は見積もり時点では全てピータイルになっていた。英文学科からは45分授業で教室移動する時、机、椅子をずらす音がうるさいのでジュウタン床にして欲しい要望が出されていたが、教務委員会を通して改善要望が出され、建築委員によってピータイルの価格を調べて見るとピータイルとあまり変わらないこと分かり、ピーベットへ変更になったのである。これによって音が出にくくなったと共に、随分と豊かな雰囲気になった。

6. 5 F

この最上階は、学生食堂、生協売店があり、完全に公共的空間である。最上階からの外の眺めは良く、上遠野氏の特に力の入った空間ではないかと思われる。階高4.1mの空間は質素であるが豊かさがある。この空間を

校舎建築における色彩のあり方

色により上品で華麗な空間にすると豊かで質素だが上品で華麗な空間になる。

床はアームストロング貼であるので、カタログの中から青系のサフィールドコロン86808を最初に選んでいた。

上部壁と天井の色決定は迷いに迷ったが、何回も現場に上り、すでに貼られていたプラスターボードの表面色に似た色としてP10-210を決め、天井色と同一とした。

下部壁は当初、合板仕上げであったが、消防上の規制によりビニールクロス仕上げとなった。青系のうすい花柄模様であるパティオTV-1545を選ぶ。床材の青系に柔らかに調和している。

この階の色彩には家具も参加してもらっている。椅子の座と背に指定の色ビニール皮を張ってもらい、椅子が動いてちらばってもうつくしい乱舞のようになる色使いをしている。花やいだ雰囲気でも好評のようである。

5. 照明下の色彩

色彩計画は完了し、実際にその色をしつらえられた建物を見ると、色彩は自然光源により見える色と、人工光源により見える色と違うことを改めて認識する。人工光源は蛍光灯下によるものと、赤色光源によって大きく違うが、蛍光灯内でも種類によって大分違う。昼光色・白色系と、高演色系、ツイン2蛍光灯と4種類あるが、2階の（はだ色）はツイン2蛍光灯下では、赤味が強く学内でクレームが出た程出あったが、同じ壁色で、自然光の多く入る学生ラウンジでは、静かなはだ色におさまっている。ツイン2蛍光灯が多用されているので赤味の強い色は、一階に白色にも微妙に赤味が映り、面白い効果を出している。

6. 色彩計画実施後の反応

1. 学生の反応

1989年度学生部主催の学生生活実態調査がおこなわれた。この建物の竣工が8月であり、その年の12月の調査であるから、できたばかりの新鮮な反応と言える。

質問16 進行者の感想 (45～53)

45～47-A 新校舎 (C館) の使用感想—

表45 学年・学年別 (%)

項 目	学 年 ・ 学 科		1 年		2 年		全 体
	E	K	E	K	E	K	
1. 教室が明るくきれいになったが勉学意欲は変化なし	52.5	44.1	43.5	44.1	46.1		46.1
2. 教室が明るくきれいになり、勉学意欲がわく	20.1	22.5	32.4	18.6	23.4		23.4
3. 先生と学生との間に新鮮な緊張感が生まれ、よりよい教育環境になった	13.5	8.4	12.0	7.8	10.4		10.4
4. 設備が充実してうれしい	66.0	62.7	78.6	63.0	67.6		67.6
5. 色彩が派手で落ち着かない	30.6	25.5	27.3	37.8	30.3		30.3
6. ラウンジや生協・食堂が整備されて、友人との交流機会が増えた	39.6	49.2	48.6	40.8	44.6		44.6
7. 掲示板が見易くなり、事務対応もわかりやすくなった	20.1	26.4	12.6	25.5	21.2		21.2
8. 以前とかわらず、迷路のようで使いづらい	14.7	14.4	12.6	21.3	15.8		15.8
9. その他	2.7	3.3	4.2	3.9	3.5		3.5

[コメント] 設備が充実してうれしい(68%)と多くの学生が歓迎を表明している。しかし、(1)勉学意欲は変化しない(46%)と勉強とは関係がないと約半数の学生は言っているが、(2)意欲がわく(23%)と肯定する学生もけっこういて、さらに、(3)先生と学生の間により良い教育環境になった(12%)と、積極的に評価する学生もいる。(6)ラウンジ、生協、食堂が整備された(45%)と、歓迎しているが、(5)色彩が派手で落ち着かない(30%)と、色においてはとまどっている学生、不満を表明している学生がおり、自由意見には25人の色彩不満足意見と、22人の色彩肯定意見がよせられ、施設を含めてよいという意見は40人から寄せられた。

No.5の項目が色彩についての反応であるが、「色彩は良いと思う」の問いを1つ付け加えれば、より正確な学生反応が出て来たのではないかと考えている。No.5においては約30%の学生が色彩が派手で落ち着かないと思っている。とまどっている学生の反応であるが、今までの学校建築にない色使いであったから驚きであっただろう。1991年度に次回の学生生活実態調査がある。それにはどんな反応が出るか、興味あるところである。

2. 一般の反応

学外者で美術専門教育を受けて来て、この建物を見た人の反応はどうであろうか。一人の女性の画家は、透明感のある色使いで大変良いという感

想を述べてくれた。建築家はどうかであろう。上遠野氏は竣工式の折、客人達の前で、前向きの賛意を表わしてくださった。インテリア事務所の方々も良い反応である。

それでは学内の先生方が来客人を案内しての反応はどうかであろう。話をまとめてみると、大変よいという反応を述べて下さる。

学内の反応はどうかであろうか。教室の赤のビーベットの教室は授業がしにくいという意見はある。これは安い費用で違う色への貼り替が出来るので、意見がまとまれば実行できる。その他、壁色へのとまどいの拒否反応意見もあったが、今では聞こえて来なくなった。

10月に行なわれる学園祭には、学生は友人、家族にこの校舎をみせたがっているようである。この行動は、在席している学校の良い特徴を見せたがっている反応である。設備の良さと共に、色彩につつまれた新しいきれいな学校を自慢したがるのではないだろうか。

秋に行なわれる高校生対象の一日体験入学において、校舎の反応は上々であり、入学したくなったとの意見を述べる高校生がかなり居る。その反応は入試受験者数に反映しており、1991年度入試受験者数も前年度より増加しており、3年連続の増加である。この3年は、新校舎建築完成後の数値と一致して居る。

受験者増加はカリキュラム改善や、科目変更の要因もあろうが、新建築の要因は大きいと思われる。その中の色彩計画は、やはりよいものとして受け入れられたと理解したい。

7. おわりに

最後にインテリアプロジェクトのメンバーとして、実務忙しい中、心身共に協力をおしまず行動していただきました、図書館司書の大井愛子氏、学生係の笹谷幸子氏に感謝いたします。計画中の折々に考えあぐねている時に、貴重な助言をくださいました諸先生方、有難うございました。とりわけ、自由にかつ力の出せる状態で仕事をさせていただきました建築委員長寺岡宏教授には、心から感謝の気持を表わしたいと思います。

小林 令明

仕上表一覧

※色見本は社団法人も日本塗装工業発行64年カラーサンプル。
大日本インキ化学、日本の伝統色、フランスの伝統色による。

室名	床	壁	天井	備考
全 防 火 炉	P13-853 (青紫)			
全 防 火 炉 枠	P 1-1002 (淡グレー)			
全カーテンBOX	P 9-631 (淡青)			
B 1 F				
多 目 的 室	タータン材 緑指定	フランスの伝統色(大日本インキ) F168ジョーズ・ナルシス(黄)	T25木毛板に P18-555(緑)	パイプP-18-555(緑)
倉 庫	フロアリウムブレンNo.31	P 6-231	T12ジブトーンの色	
ボイラー室	防塵塗料塗り		T25木毛板の色	
電 気 室	防塵塗料塗り		T25木毛板の色	
I F				
教 職 員 玄 関	玄関ドア一枠P 3-158・北側外部鉄窓枠P 3-158			
学 生 玄 関	玄関ドア一枠P 3-158			
ロビー・廊下	モザイクパーケット(木)	クロス貼りの上(白)	(白)	
事 務 室	タイルカーペット	(白)	T12岩綿吸音板の色	
講 師 控 室	ビータイル	(白)	T12岩綿吸音板の色	
応 接 室	Pベットの	(白)	T12岩綿吸音板の色	
来 客 階 段	P9-934(淡紫)			
来客階段下壁	M4-158			

校舎建築における色彩のあり方

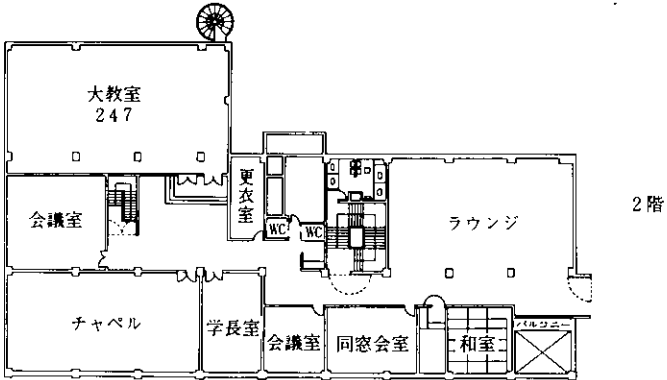
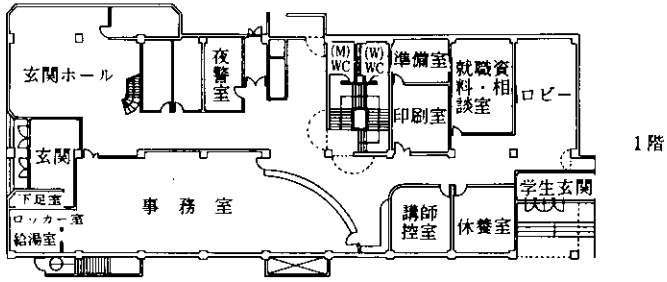
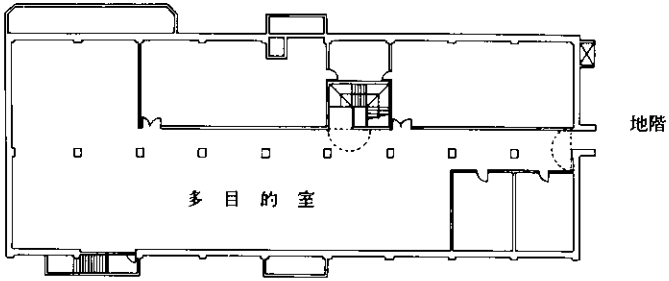
室名	床	壁	天井	備考
2 F				
学生ラウンジ	Pタイル:マチコSブレーション No.5600(白),No.5697(淡ピンク)	日本の伝統色(大日本イソキ) 734(はだいろ)	上り天井部分P10-159(淡ピンク) T12岩綿吸音板の色	
ホール・廊下	〃	〃	〃	
大教室	ニューコロナNo.400(グレー)	P 6-243(淡ピンク)	T12岩綿吸音板の色	
チャペル	タイルカーペット	権ペニヤ	T12岩綿吸音板の色	
学長室	タイルカーペット: グラッドアートGA-100.No.13(緑黄)	ビニールクロス パチオTV-1572(グレー)	T12岩綿吸音板の色	
大会議室	タイルカーペット: グラッドアートGA-100.No.13(緑黄)	ビニールクロス パチオTV-1572(グレー)	T12岩綿吸音板の色	
小会議室	Pタイル:マチコ・コーデラ No.719	ビニールクロス パチオTV-1568	T12岩綿吸音板の色	
同窓会室	Pタイル:マチコ・コーデラ No.724(淡黄)	ビニールクロス パチオTV-1567	T12岩綿吸音板の色	
職員休憩室	タタミ敷き Pタイル:マチコSブレーションNo.5696	P 7-431(若草色)	T12岩綿吸音板の色	
倉庫	Pタイル:NEWマチコ No.13(グレー)	P 6-231	T 9 ヴフトーンの色	
3 F				
ホール・廊下	Pタイル:マチコSブレーションNo.6285(若草色) No.6287(淡ピンク)No.6222(淡黄)	P 7-431(若草色)	上り天井部分P10-159(淡ピンク) T12岩綿吸音板の色	
AVライブラリー	タイルカーペット: グラッドアートGA-0066(モスグリーン)	P 7-431(若草色)	上り天井部分P10-159 T12岩綿吸音板の色	
L・L教室	タイルカーペット: グラッドアートGA-100.No.19(青)	P 6-243(淡ピンク)	T12岩綿吸音板の色	
情報処理室	タイルカーペット: グラッドアートGA-100.No.25	P 6-243(淡ピンク)	T12岩綿吸音板の色	
小教室343	Pタイル:ニューコロナ No.101(赤)	P 6-243(淡ピンク)	T12岩綿吸音板の色	
小教室344	Pタイル:ニューコロナ No.308(青)	P 6-243(淡ピンク)	T12岩綿吸音板の色	
小教室345	Pタイル:ニューコロナ No.210(緑)	P 6-243(淡ピンク)	T12岩綿吸音板の色	
各教室ドア	P11-452(強若草色)			
各教室ドア枠	P1-1002(淡グレー)			

小林 令明

室名	床	壁	天井	備考
倉庫	Pタイトル:NEWマチコ No13 (グレー)	P 6 - 231	T 9 ジブトーンの色	
4 F				
ロビー・廊下	Pタイトル:マチコSブレーション No68(赤) No69(淡青) No67(淡ピンク) No68(赤緑色)	P 9 - 631 (淡青)	上り天井部分P-10-159(淡ピンク) T12岩綿吸音板の色	
大教室 447	Pベット:ニューコロナ No407 (青グレー)	P 6 - 243 (淡ピンク)	T12岩綿吸音板の色	
中教室 445	Pベット:ニューコロナ No101 (赤)	P 6 - 243 (淡ピンク)	T12岩綿吸音板の色	
中教室 441	Pベット:ニューコロナ No307 (青)	P 6 - 243 (淡ピンク)	T12岩綿吸音板の色	
中教室 444	Pベット:ニューコロナ No306 (空色)	P 6 - 243 (淡ピンク)	T12岩綿吸音板の色	
小教室 442	Pベット:ニューコロナ No101 (赤)	P 6 - 243 (淡ピンク)	T12岩綿吸音板の色	
小教室 443	Pベット:ニューコロナ No303 (青)	P 6 - 243 (淡ピンク)	T12岩綿吸音板の色	
各教室ドア	P-13-852 (青)			
各教室ドア枠	P 1 - 1002 (淡グレー)			
倉庫	Pタイトル:NEWマチコV No13 (グレー)	P 6 - 231	T 9 ジブトーンの色	
5 F				
食堂	アームストロング製: サフィードローンNo86808	上段壁P10-210 下段壁ビニールクロス:パティオTV-1545	リシン吹付 P 10 - 210	ツイタテ:ビニールクロス: パティオTV-1544
食堂・高窓枠				
荷わけコーナー	Pタイトル:マチコ・コーデラ No719	P 6 - 231	T 9 ジブトーンの色	
生協売店	Pタイトル:マチコSブレーション No5676	P 6 - 231	T12岩綿吸音板の色	
生協事務室	Pタイトル:マチコ・コーデラ No719	P 6 - 231	T 9 ジブトーンの色	
売店内階段	P13-940 (紫)			

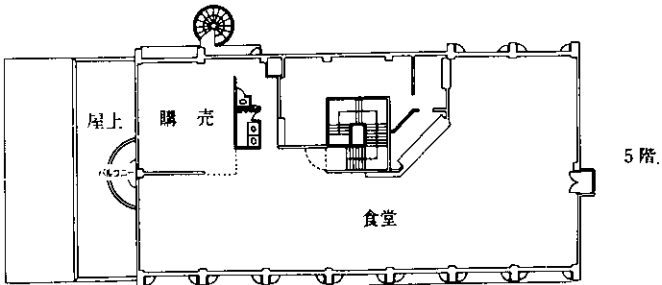
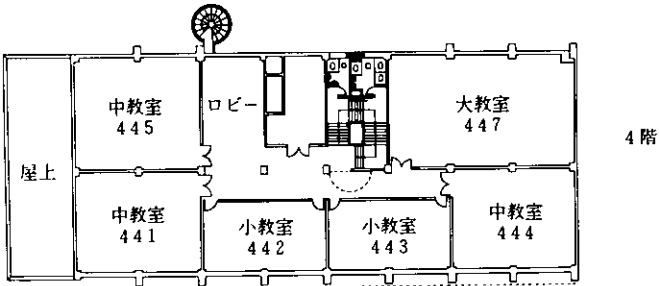
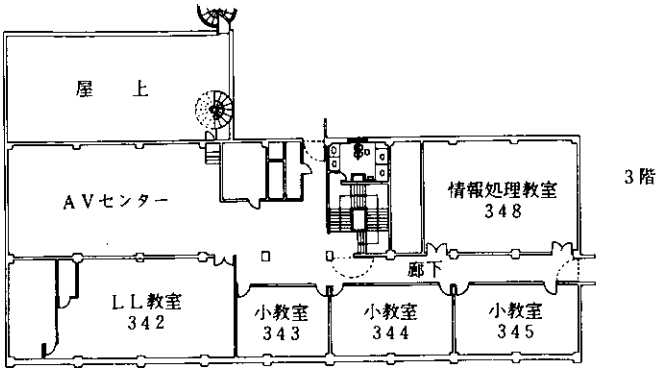
校舎建築における色彩のあり方

C 館



S ≒ 1/600

小林 令明



S ≒ 1/600